

シーン3

「みんなようこそ！ ギャル子ちゃんのおもちゃの時間だよー！ 来てくれてありがとうね！」

「今日はなんとお風呂からの配信だよー あのね、また触手送ってもらったの。しかも今回はただの触手じゃなくて、美容効果があるスライム触手セット。これ以上綺麗になっちゃうよー、へへっ」

「スライムの素をお風呂に入れて使うみたいだからここから配信してるんだ」

「一緒にビキニも送ってもらっちゃったの。どうかな？ 似合ってる？……あ、「毎日ギャル子ちゃんデシコってます」さん投げ銭ありがとー」

「水着かわいすぎ！ エッチなポーズお願いします」

「しょうがないなー。どーお？ かわいい？ スライムでぐちゃぐちゃにされるところも見ててね」

「じゃあスライムの素入れてみるね」

「んー、入浴剤みたいなのかなって思ったけどお湯は透明なまま……うわっ、触手出てきた」

「これまでのよりフニフニな感じ。これがスライム触手なんだ、今日はこのスライムで遊ぶよ。ギャル子ちゃんいっぱいシコってね！」

「とりあえずお風呂に入ってみる。いきなりスライムに沈められるとかないよね……」

「んっ……なんかプルプルしてる。弾力があって、でも足が入ってく。プリンより柔らかい……なんだっけあの透明なお餅みたいな……そうそう、わらび餅が一番近い」

「面白い感触。このまま肩まで浸かってくね」

「あー、プルプルで気持ちいい。確かに美容によさそう」

「んっ」

「なんかマッサージされてるみたい。スライムがアタシの体モミモミしてくれてるの。すっごく気持ちいい」

「あ、なんか触手出てきた。なにするんだろ」

「んっ、すごい」

「肩ぐりぐりしてくれてる、はぁ〜いい気分〜今日はまったく配信になっちゃうかも〜一緒に風呂はいつてる感じでゆっくりもいいじゃん?」

「おちんちぽも休ませてあげなよ……」 「ギャル子ちゃんの入浴シーン! シコれる!」

「いや、シコるはシコるんかい。ひゃっ……お尻撫でてきた。ひゃっ、んっ、んうっ……水着ずらして中に入ろうとしてる」

「ひゃあっ……入ってきた、んううっ……えっ、お尻の中に来てる」

「うそっ、嘘でしょ」

「ちょっと待って、待ってよ。これ、お尻の穴に入ろうとしてきてる」

「んうっ、うっ……おまんこでいいじゃん。お尻はダメだよ。アナルの経験なんてないんだから」

「うっ、んうっ……お尻の穴広げられてく。うっ、ううっ、んううっ……そんな広がりないからあ。んっ、んっ、んああっ……入ってきたあ」

「なんなのこのスライム。アナル使うなんてどこにも書いてなかったのにい、んうっ、ううっ……お尻変な感じい。うっ、んっ、はうっ、うっ、ううっ……」

「どんどん入ってくるう……もしかして体の中から綺麗になるってこういうことなの？ スライムが直接入って掃除するってこと？ 嘘でしょお」

「ううっ、んっ、んっ、んううっ、はうっ、うっ、はうんっ……お腹パンパンになってく、んあっ……う、え、ちょっと……あはは、ちょっと中断。いや、その、あれだよあれ。直接書くな！」

「ちょっとトイレ行ってくる。すぐ戻ってくるから待ってて」

「うわっなに」

「スライムが足掴んでくるー、離してよトイレ行きたいの。待って、このスライムトイレ行かせない気なの」

「アナル責めてきたり、変態向けじゃん。うう……柔らかのに足をがちり捕まえてる。ビクともしないんだけど」

「うう、んう、漏れちゃう……ちょっとみんな面白がってないでよー本当にやばいんだから。んう、うう、うう……出ちゃうう……すーすーすーすー……我慢、できない」

「……えっ、「触手通販」さん、投げ銭ありがと、うう……」

「もう、お尻の中のものはスライムが分解してる時間だから。出てくるのはスライムゼリーだけです」

「って、それでも……あ、こら、みんなで投げ銭いれちゃっ……わ、わかりましたー」

「みんなの期待に応えるのがギャル子ちゃんだから……ん、もう限界だし、んんっ。スライムゼリーアナル責め、最後まで……あ……せ、せめて手おけに……」

「いくよ」

「責任とってしっかり見てシコてよね。んっ、んっ、んうっ、うっ、あっ、出る……う、んううううう。ああ、みんなの前でお尻からスライムゼリー出しちゃった……」

「本当だ、風呂の中と同じ透明なスライム。よかったあ」

「この変態スライム」

「アタシの、出すところ見てシコったみんなも変態！……「桶の中見せてー」って見せるわけないでしょ」

「なんか恥ずかしいから。もうこれは終わり」

「はあ、お風呂浸かろー」

「ふう、あったかくて気持ちいい」

「ん？」

「わっ、触手2本出てきた。次はどうされちゃうんだろ。お腹もスッキリしたしエッチなことでもいいよーみんなもまだ見たいだろうし」

「あれ？」

「出てきただけでなにもしてこない、どうしたんだろ……あ、コウくん、投げ銭ありがと

「触手に手コキとフェラしてほしいです!」。おっけー」

「触手からはなにもしてこなさそうだしアタシからしちゃうね、れろっ、れろちゅぷっ

……お風呂でしてるみたいでいいね」

「れろっ、れろっ、れろっ、れろれろっ、ちゅぷっ……恋人と一緒にお風呂に入ってまっ

たりしてたんだけど興奮しちゃって、みたいなシチュ。れろれろっ、れろっ、ちゅっ、ち

ゅっ、ちゅぷっ……」

「……「ギャル子ちゃんしたことあるの?」ないよー、してみたいけど、恋人なんてずーつといたないもん。エッチなギャル子ちゃんと付き合える男なんてなかなかいないからねー」

「今の所はみんなが恋人かな、へへっ。どっちの触手からも我慢汁溢れてきた、お風呂のは匂いないけど、我慢汁にはあるみたい」

「はぁ、エロい匂い」

「れろれろっ、れろっ、れろっ、れろっ、れろちゅぷっ……」

「あつ、もう一本触手生えてきた。こっちのも手でシロシロしてあげる。お風呂の中我慢汁の匂いでいっぱい」

「みんなのおちんぽはどうなってる？ 我慢汁でべちゃべちゃかな？……ふふっ、みんなのエロいおちんぽ想像しながらするね。れろっ、れろっれろっ、れろっ、れろちゅぶっ……ヌルヌルおちんぽおいしい」

「ちゅぶっ……」

「へへっ、まあ触手生えてきた。これ以上どうすればいいの。んーじゃあ2本一緒に舐めようかなダブルフェラってやつ」

「2本手コキで1本フェラ、ギャル子ちゃんおちんぽ大好きみたいじゃん」

「まあ、そうなんだけど」

「れろれろれろっ、れろれろれろっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅぶっ……おちんぽ大好き。シゴクのもフェラするのも。みんなのおちんぽもだーい好き」

「触手ちんぽしゃぶってるアタシでぴゅっぴゅっしてね、もう触手も出ちゃいそうだし、みんなもイケそうだね。たっくさんザーメンアタシにぶっかけて、じゅずっ、じゅずっ、じゅずっ、じゅずずずっ……んあつ、あつ、ああつ、ああんっ！」

「んっ、んうっ、ううっ、んっ……すごい量」

「4本のおちんぽにぶっかけられるとこんなになっちゃうの」、顔にもおっぱいにもべったり、どろっどろっでついたまま落ちてこないし匂いも濃厚」

「このセーシエロすぎ」

「えっ、あっ、ちょっと、なんで射精したのにアタシに襲いかかってくんの。ああっ、あっ、いやっ、乳首に吸い付いてきたあ。ひゃああんっ……あ、またお尻に入ろうとしてる」

「はあっ、あうっ、あうっ、ううっ、んうううっ……お尻に挿れられちゃったあ、ううっ、ううっ、ううっ、ううっ、ううっ、ううっ……アナルセックスしてるう」

「ううっ、ううっ、はあっ、あうっ、ううっ、んううっ……乳首とおまんこ同時責めもいいけど、乳首とアナルもやばい、ううっ、んううっ、ううっ、ううっ、んううっ……結構いい、アタシアナルの才能あるのかも」

「もっとアナルいじられれば感じられそう。うおおっ、おおっ、ううっ、ううっ、んおおっ……嘘、もう感じちゃってる、アナルに触手ズコズコされて感じちゃってるの。おおっ、んううっ、うううっ、うううっ、うおおっ……どうなってんの、アタシのアナル」

「んううっ、ううっ、おおっ、ほおおっ、おおっ、んううっ……あっ、触手おっぱいから離れてく、どうしたの?」

「んっ、んう、ううっ、ううっ……ぎゃっ、ああっ、ああっ……」

「またぶかっけられちゃった、はあっ、ああっ、ああっ、ああうっ、ううっ……ふふっ、また触手生えてきたあ、代わりばんこに犯すんだあ」

「らごや」



「お尻から触手スライムが出ちゃっつ、んっ、んぁ♡ ……気持ちいいよう♡」

「はぁ、はぁ、はぁ、ふう……ザーメンでお腹いっぱい。最後に一斉にぶっかけられちゃったし体の中も外もセーシまみれ、エロすぎだね、アタシ」

「みんなもぶっかけてくれたかな？ スライム触手すごかったあ」

「あ、アナルゼリーはちょっと恥ずかしかったけどお、それも興奮して感じまくっちゃった、お風呂だから汗もかけてスッキリした気分」

「本当に綺麗になってるかもねー。ただ長く入りすぎてのぼせちゃいそう。そろそろ出るね」

「ギャル子ちゃんのおもちゃの時間、今日はここまでー」

「バイバーイ」